

平成29年度事業報告

平成29年4月1日から平成30年3月31日まで

本県の畜産は、各畜種とも全国屈指の地位にあり、平成28年度には県農業産出額の6割を超えるにいたるなど、すそ野の広い関連産業を含めて、地域経済の活性化に重要な役割を果たしている。

一方、全国的な傾向として、担い手の高齢化等により、各畜種とも農家戸数の減少傾向が続いている。

肉用牛においては、子取り用雌牛飼養頭数の減少が肥育素牛不足を招き、肉用子牛価格の高騰につながった。平成28年以降（本県は平成29年（農林水産省畜産統計）、子取り用雌牛飼養頭数は増加基調に転じているが、肉用子牛価格は逆に低下傾向となっている。肉用牛肥育経営については、枝肉価格の低下傾向に加え、今後出荷される肥育牛の導入時における素牛価格がまだ上昇過程にあることから、資金繰りが一層厳しさを増す状況となっている。

酪農については、本県を含めて都府県における生産基盤の縮小に歯止めがかからず、平成29年度の都府県生乳生産量は約2%の減少が見込まれている。

畜産物価格については、年度後半から総じて弱含みの傾向にあり、生産縮小と合わせて、経営安定の観点からも懸念される状況となっている。

また、平成29年度は、通商ルールにおいては、TPP11や日欧EPAの交渉が一区切りを迎え、発効に向けた手続きの段階に入った。国内制度においては、加工原料乳生産者補給金交付対象の拡大（平成30年4月1日施行）などが決定された。

こうした中、当協会としては、来るべき環境変化にも耐えうる畜産経営の確立に向けて、年度当初に計画した事業に加え、台風第18号対策や、酪農経営における労働負担軽減対策など、国が新たに創設した事業等にも取り組んだ。

加えて、宮城県で開催された第11回全国和牛能力共進会については、岩手県対策協議会・協賛会の事務局として、本県を代表して出品された生産者及び出品牛がその能力を最大限に発揮することができるよう支援を行った。

<重点事項>

- 1 将来を担う経営体を対象とした経営診断・経営技術指導
- 2 地域が連携した収益性の高い経営体の育成支援
- 3 肉用牛肥育経営安定対策の推進
- 4 経営向上効果のある家畜人工授精用凍結精液の安定供給・利用推進
- 5 家畜改良増殖の推進
- 6 地域ぐるみの家畜衛生対策の推進
- 7 精度の高い生乳検査の確保
- 8 第11回全国和牛能力共進会出品対策の推進

I 実施事業

1 継続事業 1

畜産振興を目的として、経営の改善指導・生産技術の向上指導、経営体の育成啓発、家畜改良の推進指導、家畜衛生の向上指導及び畜産物の安全確保指導、調査及び情報提供、家畜生産・家畜改良意欲の増進啓発等に係る事業を実施した。

<経営安定・改善のための診断・助言等に係る事業>

(1) 畜産生産基盤育成強化事業

[県委託：5,298千円]

経営感覚に優れた生産性の高い畜産経営の確立を推進するため、関係機関・団体による経営分析・指導等を行った。

ア 畜産経営技術の総合支援指導

(ア) 個別支援指導の実施 延べ 193件

- ① 経営診断に基づく改善指導 5件
- ② 経営管理技術指導 45件
- ③ 生産技術指導 87件
- ④ フォローアップ指導 56件

(イ) 地域セミナーの開催 5回

イ 畜産経営情報の提供

ホームページに情報掲載(随時)

(2) 畜産特別資金等推進指導事業

[中畜補助：4,223千円]

畜産特別資金借入者の経営を改善するため、関係機関・団体で組織する「畜産特別資金岩手県支援推進協議会」による農家指導等を行った。

ア 融資機関への指導 22回

イ 経営改善計画作成、見直し及び達成に係る指導

(ア) 見直し指導 15戸、4回

(イ) 達成指導 40戸、45回

ウ 借入者の負債残高等経営改善進捗状況調査

8融資機関、88戸(前年度対比△9戸)

エ 借入者の経営改善計画の定期的実績点検調査

58戸(前年度対比△20戸)

※ 前年対比での減少 主に繰上償還によるもの

(3) 地域畜産支援指導等体制強化事業

[地金協補助：12,019千円]

地域畜産の安定及び高度化を図るため、国及び県の主要な畜産振興施策を補う各種事

業を実施した。

ア 畜産経営の支援体制強化事業

- ・ 経営診断指導（コンサルティング）193戸、地域セミナー 5回ほか
- ・ 乳質改善指導 414戸（ミルクシステム診断に合わせて実施）
- ・ 乳用牛群検定推進に係る成績取りまとめ等 14検定組合
- ・ 研修会及び会議等への参加及び情報提供等 30回
- ・ 家畜生産農場清浄化促進啓発事務

イ 地域畜産の活性化に資する事業

- ・ 県域及び地域の家畜共進会支援 44地域
- ・ 畜産関係情報の提供及び普及啓発 要覧作成、ホームページ更新（随時）

ウ 馬事普及啓発の推進体制強化事業

- ・ 競馬場（水沢）における畜産フェア 畜産物加工品配布 400人分
- ・ 競馬冠レース優勝者への副賞（いわて牛）授与 2回
- ・ 馬事イベントへの支援（副賞授与）1回（馬力大会）

（4）畜産・酪農生産力強化対策事業（家畜生産性向上対策）

[中畜委託：938千円]

家畜遺伝能力の最大限の発揮による生産性向上を図るため、生産性に係るデータの収集・分析と技術指導を実施した。

- ・ 酪農経営 5戸
- ・ 肉用牛経営 5戸（繁殖 2戸、肥育 3戸）

（5）ミルクシステム診断事業

[独自：7,239千円]

酪農経営における収益性向上のため、ミルクシステム診断及び搾乳指導等を実施した。

- ・ ミルクシステム診断 416基（前年度対比+29基）
- ・ バルククーラー点検 372基（前年度対比+33基）

※ 前年度対比での増加 乳質事故防止意識の高まり

<担い手の強化・育成等に係る事業>

（6）肉用牛経営安定対策補完事業（地域における肉用牛生産基盤強化等対策）

[機構補助：7,564千円、預かり補助金84,207千円]

肉用牛の安定生産を確保するため、国の経営安定対策を補完する取組を支援した。

ア 肉用牛生産基盤強化対策

① 中核的担い手育成増頭推進

繁殖雌牛増頭奨励金 7農協、339頭（前年度対比93.6%）

- ② 優良繁殖雌牛導入支援
優良雌牛導入・農家貸付奨励金 7農協、144頭（対前年度比78.3%）
- ③ 肉用牛ヘルパー推進
肉用牛ヘルパー利用の推進等 5組合

イ 地域の特色のある肉用牛振興対策

- ① 地方特定品種等の振興
 - ・ 特徴ある牛肉生産等 1農協、13集団
 - ・ 計画出荷対策 1農協、310頭
- ② 山振地域における肉用牛振興
優良子牛適正出荷推進 3農協、3,023頭

(7) 粗飼料確保緊急対策事業

[機構補助：649千円、預かり補助金5,152千円]

平成29年台風第18号により自給粗飼料が収穫不能等になった生産者の経営継続を図るため、代替粗飼料の確保等に対して支援を行った。

- ・ 代替粗飼料購入補助（1kg当たり5円）2戸、約853t
- ・ 発酵促進資材購入補助 8戸
- ・ 対象市町：花巻市、金ヶ崎町、洋野町

<地域が連携した畜産振興等に係る事業>

(8) 畜産クラスター機械導入事業（窓口団体事務）

[中畜委託：5,253千円]

畜産・酪農収益力強化整備等特別対策事業のうち機械導入事業について、本県の窓口団体としての事務を行った。

- ・ 対象 20の畜産クラスター協議会
 - ・ 要望額 325,183千円（機械170台）
 - ・ 配分額 144,037千円（機械 62台）
 - ・ 配分率 44.3%
- } 金額は補助金ベース（機械価格の1/2）

主な導入機械

機 械 名	価 格	機 械 名	価 格
コンビネーションベラー	13,040千円	ロ ー ル ベ ー ラ ー	5,100千円
堆 肥 運 搬 車	4,524千円	カッティングロールベラー	5,100千円
ト ラ ク タ ー	15,000千円	起土機械装置（プラウ）	5,400千円
自 動 給 餌 機	30,120千円	レ ー キ	3,360千円
ホ イ ール ロ ー ダ ー	7,810千円	乳 頭 洗 浄 機	2,420千円

(9) 酪農経営体生産性向上緊急対策事業（労働負担軽減対策）

[中畜委託：1,192千円]

酪農経営における労働負担の軽減、飼養管理技術の高度化等を推進するため、機械装置の導入（リース）を支援した。

- ・ 楽酪応援会議設置 3農協（岩手花平、岩手ふるさと、岩中酪）
- ・ 取組主体（酪農経営）4戸、導入機械台数 6台
- ・ 主な機械 餌寄せロボット、自走式配餌車、搾乳ユニット搬送レール
- ・ 補助金総額 3,010千円

(10) 畜産クラスター全国推進事業（改善効果調査）

[中畜委託：150千円]

畜産クラスターの効果を検証するため、事業取組経営体を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 1戸

(11) 畜産クラスター全国推進事業（全国実態調査）

[中畜委託：397千円]

畜産クラスターの取組を推進するため、先進的経営体等を対象として、経営内容に係る調査を行った。

調査戸数 5戸

<家畜改良の推進等に係る事業>

(12) 酪農経営支援総合対策事業（乳用牛能力向上事業）

[事業団委託48千円]

一般社団法人家畜改良事業団と牛群検定組合との間で行われる事務手続きに係る窓口業務を行った。

7 検定組合

(13) 乳用牛群検定情報分析センター機能向上事業

[県委託：507千円]

乳用牛群検定で得られたデータを有効活用するため、情報を収集・分析し、検定組合への提供等を行った。

巡回指導 14検定組合

(14) 馬の改良増殖推進事業

[地全協補助：1,600千円]

農用馬の改良及び生産振興を図るため、奨励金の交付等を行った。

- ア 優良種雄馬繁殖奨励
種付奨励金 種雄馬 5頭
種付頭数 43頭
交付額 354千円
- イ 子馬生産奨励
生産奨励金 種雌馬 36頭
交付額 1,246千円

<家畜衛生の普及推進等に係る事業>

(15) 家畜防疫互助基金支援事業

[機構補助：3,451千円]

口蹄疫、豚コレラ等発生時の経済的損失を、生産者が互助補償する体制整備のため、互助基金制度の周知と加入促進を行った。

- ア 推進会議 1回
- イ 加入実績（括弧内は加入率）
 - 乳用牛 614戸（61.4%）、32,578頭（74.7%）
 - 肉用牛 3,133戸（64.5%）、66,322頭（74.0%）
 - 豚 51戸（40.2%）、278,405頭（69.3%）

(16) 自衛防疫体制強化推進事業

[家畜衛生対策推進協議会委託：1,891千円]

地域の自衛防疫体制を強化するため、防疫演習開催するとともに、慢性感染症清浄化対策を実施した。

- ア 検討会等の開催
検討会 2回、防疫演習 4回
- イ 慢性感染症対策
牛白血病 1戸、牛マイコプラズマ性乳房炎 6戸

(17) 衛生体制強化基金事業

[中畜補助：256千円]

予防接種事業を効果的に推進するため、地域推進会議における助言指導を行った。

- ア 地域推進会議 3回
- イ アカバネ病予防啓発リーフレット作成配布 2,240部

(18) 飼養衛生管理基準等緊急啓発普及促進事業

[中畜委託：317千円]

家畜伝染病の発生予防対策を強化するため、平成28年度に改正された家畜伝染病予防法第12条の3に係る「飼養衛生管理基準」について、説明会等を開催し、周知徹底を

図った。

説明会等の開催 8回

(19) 馬飼養衛生管理特別対策事業

[中畜委託：553千円]

馬の飼養環境の脆弱化による飼養衛生管理技術レベルの低下を防ぐため、衛生管理に係る講習会の開催等を行った。

ア 委員会等の開催

委員会 1回、講習会 1回、基礎技術実習 1回

イ 実態調査

100戸

(20) 育成馬等予防接種推進事業

[中畜補助：151千円]

馬伝染性疾病の発生を防止するため、計画的な予防接種（日本脳炎、破傷風及び馬インフルエンザ）を推進した。

日本脳炎 6頭、破傷風混合3種 17頭、馬インフルエンザ 28頭

(21) 馬伝染性疾病防疫推進対策事業

[中畜委託：780千円]

馬インフルエンザ及び馬鼻肺炎の防疫対策として、農用馬等へのワクチン接種を推進した。

馬インフルエンザ 85頭、馬鼻肺炎 22頭

(22) 農場HACCP取組体制緊急強化事業

[中畜委託：592千円]

農場HACCPの取組を推進するため、講習会を開催するとともに、認証取得を目指す経営体への助言・指導を行った。

ア 推進会議 2回

イ 講習会 2回

ウ 認証取得助言・指導 1経営体6回

(23) 死亡牛緊急検査処理円滑化推進事業

[農水省補助：2,159千円、預かり補助金19,485千円]

死亡牛の適正な処理とBSE検査の円滑な実施を推進するため、処理に要する費用への補助を行った。

48か月齢以上の死亡牛 2,256頭

<技術研鑽・生産意欲増進等に係る事業>

(24) 家畜共進会開催事業

[県補助：1,250千円、独自：1,278千円]

県内畜産農家の家畜改良意識の向上と相互研鑽の場を提供するため、岩手県畜産共進会として、全県を範囲とする畜種別の共進会を開催した。

黒毛和種の部については、第11回全国和牛能力共進会出品牛最終選考会を兼ねて実施した。

部 門	期日	出品頭数	会 場
黒 毛 和 種	7月26日	68頭	JA全農いわて中央家畜市場
ホルスタイン種	7月27日	63頭	同上
日 本 短 角 種	7月28日	39頭	同上
馬	9月29日	8頭	馬っこパーク・いわて
肉牛（黒毛和種）	10月21日	80頭	株式会社岩手畜産流通センター

<畜産に係る調査、情報収集及び情報提供等に係る事業>

(25) 「岩手の畜産」発行事業

[独自：1,324千円]

畜産農家及び畜産関係機関・団体に、畜産経営に関する有用な情報を提供するため、会報「岩手の畜産」を発行した。

年6回奇数月発行 発行部数 1,300部

(26) 乳用種初生牛の経営に関する調査事業

[中畜委託：400千円]

畜産振興施策の基礎資料を得るため、乳用種初生牛の生産費等の調査を行った。

酪農経営 20戸

(27) 畜産近代化リース協会貸付事業指導等事業

[畜産近代化リース協会委託：1,346千円]

畜産近代化リース協会貸付事業により導入された施設・機械の適正利用を確保するため、物件確認と管理状況調査等を行った。

調査物件数 101件、リース事業周知 14回

(28) 畜産技術指導促進事業

[独自：758千円]

研修会、会議、共進会等において、畜産技術情報の提供等を行った。

会議等 11回、指導等 6回

(29) 図書支援事業

[独自：434千円]

畜産に関する知識・技術の普及向上を図るため、公益社団法人中央畜産会が発行する月刊誌「畜産コンサルタント」等の書籍の斡旋配布を行った。

畜産コンサルタント 396部

一般書籍 40部

2 継続事業2

肉用牛肥育経営安定対策事業

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業

[機構補助：878,698千円、生産者等：288,855千円、手数料：13,760千円]

肉用牛肥育経営の安定を図るため、肥育牛1頭当たり平均粗収益が平均生産費を下回った場合に、生産者の拠出（生産者積立金）と機構の補助により造成した基金から、粗収益と生産費との差額の8割を補填金として交付する等の事務を行った。

なお、日本短角種については、独自に生産者積立金及び補填金単価を設定する地域算定方式を行った。

ア 肥育安定基金造成

品種区分	生産者積立金	機構補助	計
肉専用種	65,280千円	195,840千円	261,120千円
交雑種	176,413千円	529,239千円	705,652千円
乳用種	35,914千円	107,742千円	143,656千円
日本短角種	※ 11,248千円	33,744千円	44,992千円
計	288,855千円	866,565千円	1,155,420千円

※ 日本短角種の生産者積立金には、(2) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業による県等の補助金3,742千円が含まれている。

[基金造成単価]

品種区分	平成28年度	平成29年度	備考
肉専用種	40,000円	24,000円	負担割合 生産者：1/4 機構：3/4
交雑種	100,000円	76,000円	
乳用種	104,000円	88,000円	
日本短角種	148,000円	48,000円	

イ 補填金交付（括弧内は前年度対比）

品種区分	対象頭数	交付額
肉専用種	—	—
交雑種	9,029頭（1,207%）	470,611,700円（10,148%）
乳用種	1,591頭（131%）	62,024,700円（155%）
日本短角種	191頭（172%）	2,465,300円（149%）
計	10,811頭（522%）	535,101,700円（1,155%）

[補填金発動状況（金額は1頭当たり補填金額）]

（単位：円）

月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種	月	肉専用種	交雑種	乳用種	日本短角種
4	—	10,800	55,200	—	10	—	72,700	35,300	—
5	—	48,300	39,900	11,400	11	—	60,000	23,500	—
6	—	56,600	39,400	12,100	12	—	30,000	21,200	—
7	—	64,400	39,900	—	1	1,900	50,100	29,000	—
8	—	81,000	45,900	—	2	—	72,300	31,700	—
9	—	73,500	39,200	—	3	—	84,600	28,500	—

ウ 事業推進

担当者会議開催 1回

事務委託先等指導 47回

(2) 日本短角種肥育経営安定特別対策事業

[県等補助：3,413千円]

(1) 肉用牛肥育経営安定特別対策事業における日本短角種生産者の負担を軽減するため、県、市町及び農業協同組合からの補助を受けて、生産者積立金への補助を行った。

生産者積立金への補助

区分	金額	備考
岩手県	1,839千円	1頭当たり補助単価：6,000円 負担割合：県1/2、市町1/4、農協1/4
市町	920千円	
農業協同組合	654千円	
計	3,413千円	

3 継続事業3

家畜自衛防疫事業

[農水省補助：22,943千円、独自：201,771千円]

(1) 家畜生産農場清浄化支援対策事業

[農水省補助：22,943千円]

家畜生産農場における家畜伝染病等の清浄化及びまん延防止のため、同居牛のとう汰や組織的な予防接種等を推進した。

ア ヨーネ病防疫推進

自主とう汰奨励金 10戸（前年度対比200%）45頭（前年度対比409%）

イ 伝染病の発生・流行防止対策

アカバネ病予防接種 43,331頭

ウ 牛白血病対策

講習会開催 1回

清浄化推進農場抗体検査 4戸206頭

エ 牛ウイルス性下痢・粘膜病対策

講習会開催 1回

自主とう汰奨励金 7戸11頭（前年度対比157%）

ワクチン接種 7戸533頭（前年度対比2,221%）

(2) 家畜自衛防疫推進・支援事業

[独自：201,771千円]

ア 予防接種推進事業

家畜伝染性疾病の発生を予防するため、地域ぐるみのワクチン接種を推進した。

ワクチンの種類	頭数（前年度対比）
牛 5 種 混 合（ 生 ）	6,289頭（ 84.3%）
牛 5 種 混 合（ 不 活 化 ）	11,320頭（177.1%）
牛5種混合(生)+ヘモフィルス	17,738頭(105.5%)
牛 6 種 混 合（ 生・ 不 活 化 ）	3,991頭(110.0%)
牛 6 種 混 合（ 生 ）	891頭(120.4%)
牛 ヘ モ フ ィ ル ス	4,555頭（ 82.0%）
豚 丹 毒（ 生 ）	88,214頭（ 91.2%）
豚 丹 毒（ 不 活 化 ）	36,140頭（ 96.8%）

イ 家畜伝染性疾病緊急防疫対策事業

家畜伝染性疾病の発生による被害を最小限とするため、初期の迅速な防疫活動に要する経費に補助を行った。

対象疾病	件数	補助金額
ヨ ー ネ 病	21件（700%）	2,297千円（870%）
牛ウイルス性下痢・粘膜病	12件（200%）	1,550千円（388%）
合 計	33件（367%）	3,847千円（579%）

※ 括弧内は前年度対比

II その他事業

1 その他事業1

家畜人工授精用精液流通調整事業

[独自：78,760千円]

本県の肉用牛及び乳用牛の改良増殖を推進するため、サブセンターを通じて、家畜人工授精用凍結精液等の供給を行った。(括弧内は前年度対比)

(1) 凍結精液等の供給

ア 凍結精液 107,227本 (96.1%)

内訳：肉用牛 66,809本 (93.2%)、乳用牛 40,418本 (101.2%)

イ 受精卵 662個 (75.5%)

内訳：肉用牛 595個 (76.6%)、乳用牛 67個 (67.0%)

ウ 液体窒素 54,039kg (101.2%)

(2) 経営効果の高い精液の利用推進

家畜人工授精担当者の知識・技術の研鑽と農家への助言・指導力の向上を目的として、会議等を開催した。

ア 県外視察研修 1回

イ 人工授精担当者会議 1回

(3) 供給精液の受胎状況調査

授精技術及び受胎率の向上等を目的として、供給精液の受胎状況調査を行った。

2 その他事業2

家畜登録事業

[独自：42,246千円]

本県で飼養される乳用牛及び豚の改良を促進するため、家畜登録事業の活用を推進した。(括弧内は前年度対比)

(1) 家畜登録等の件数

ア 乳用牛 9,133件 (99.8%)

内訳：血統登録 5,396件、牛群審査 1,167件、牛群検定成績証明 766件、移動・その他 1,804件

イ 豚 3,641件 (95.2%)

内訳：種豚登録 944件、子豚登記 2,181件、移動・その他 508件、農場認定 8件

(2) 登録関係研修会等への参加

研修会等への参加により、登録関係実務能力の向上を図った。

- ・ 平成29年度東北地区登録委員研修会 (ホルスタイン種)
- ・ 平成29年度東日本地区種豚登録講習会
- ・ 冬期登録事務担当者会議 (ホルスタイン種)

3 その他事業3

生乳検査事業

[独自：117,033千円]

東北地域の農業協同組合等からの委託又は依頼を受けて、生乳取引等に係る生乳検査を実施した。（括弧内は前年度対比）

(1) 検査実績

- ア 生乳取引関係 532,698,045kg (98.1%)
- イ 牛群検定関係 524,647件 (98.3%)
- ウ 依頼試料乳
 - (ア) 成分及び体細胞数検査 30,605件 (100.1%)
 - (イ) 細菌数検査 15,134件 (108.8%)

(2) 検査項目

- ア 成分
 - 脂肪率、蛋白質率、乳糖率、無脂乳固形分率、全固形分率、乳中尿素態窒素
- イ 体細胞数
- ウ 細菌数

4 その他事業4

(1) 研修事業

関係機関・団体が行う研修会等への職員派遣を通じて、最新の技術・知識の修得と協会における業務遂行能力の向上を図った。

ア 職員技術研修事業

[独自：224千円]

中央畜産技術研修会等への派遣 4回

イ 北海道・東北ブロック畜産協会職員研修事業

[独自：551千円]

当番県として、岩泉町において開催 参加者数 47名

(2) 畜産理解促進事業

競馬場等、市民が集う場所・催事において、畜産物の配布等を行い、畜産への理解を促進した。あわせて、地方競馬の活性化を支援した。

ア 岩手競馬支援特別対策事業

[独自：312千円]

(ア) 冠レースでの会長賞授与

第40回すずらん賞（7月・盛岡）及び第34回プリンセスカップ（11月・水沢）

(イ) ファン感謝デーにおける県産畜産物加工品配布

400個配布（11月・水沢）

イ 畜産関係団体調整機能強化事業

[中畜委託：500千円]

(ア) 冠レースでの会長賞授与

第35回ビギナーズカップ（9月・水沢）及び第17回ハーベストカップ（10月・盛岡）

(イ) 畜産フェアにおける県産畜産物加工品配布

400個配布（9月・水沢）

400個配布（10月・盛岡）

(3) 馬事文化地域連携体制構築事業

[県委託：6,655千円]

馬事文化を観光資源として国内外に情報発信することにより、インバウンドの誘致を促進するとともに、岩手県馬事文化地域連携連絡協議会を設置することにより、馬事関係者の広域連携体制の構築を推進した。

ア 岩手県馬事文化地域連携連絡協議会の設立・運営

協議会構成員 9市町、10団体

協議会開催 2回（11月・12月）

イ 情報発信

ホームページ「HORSE LAND IWATE」の開設（11月）

ウ シンポジウム開催

第1回いわて馬事文化シンポジウム（2月7日、遠野市）

テーマ：「馬事文化を活用したインバウンドの促進」

基調講演演題：「岩手の馬事文化を耕す“旅するきっかけ作り”」

演者 岩手県立大学教授 倉原宗孝氏

パネルディスカッションテーマ：「海外からの観光客へのおもてなしとは」

パネリスト 県内在住外国人を含む6名

エ 各種イベントでの馬の活用

- ・ 交通安全パレードでの騎馬・馬車運行
- ・ 花巻空港での海外観光客出迎え